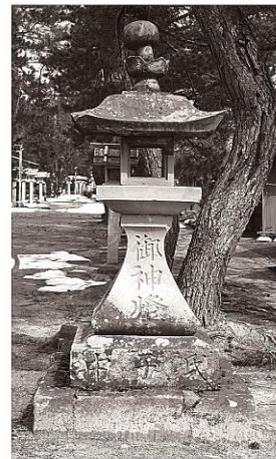
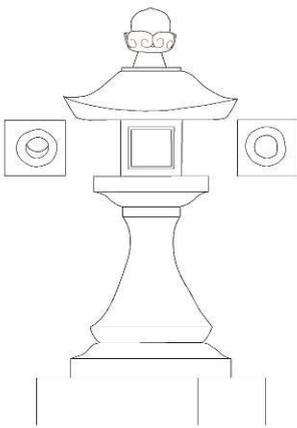
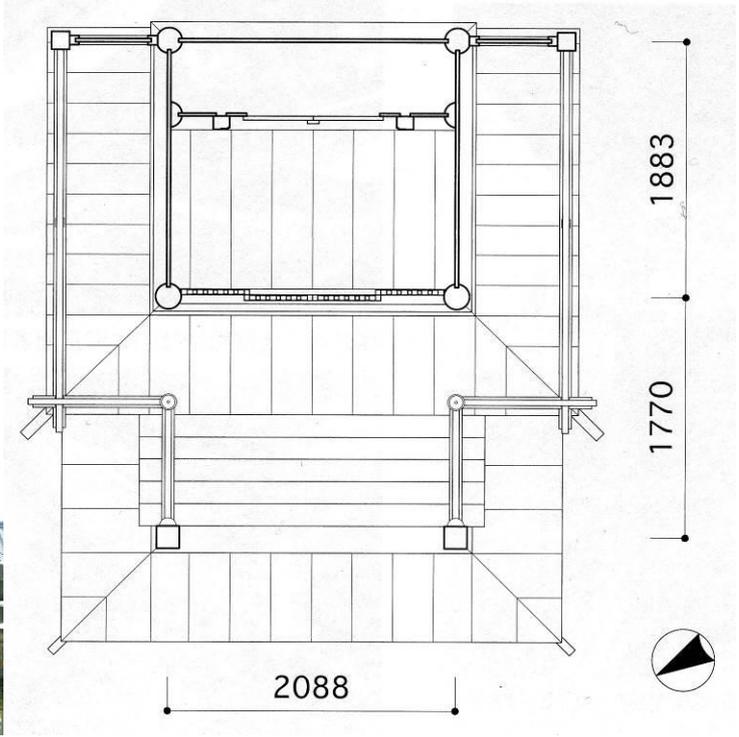
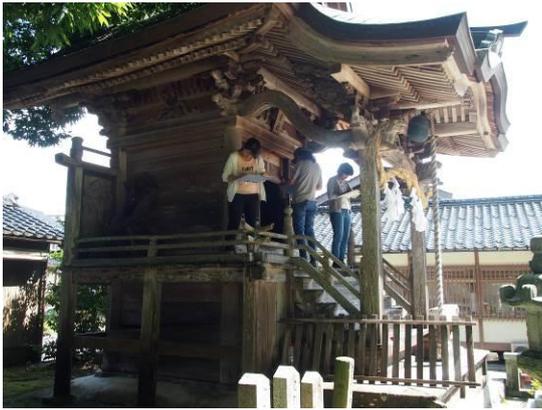


平成 29 年度 ACTR

分類 番号	A1	取組 名称	京丹後市域の文化遺産の活用を通じた地域・学校連携の構築
研究代表者所属・職名：		文学部・教授	氏名： 菱田 哲郎
研究担当者： 京都府立大学（菱田哲郎、上杉和央、岸泰子） 外部分担者・協力者（向井佑介氏、橋本学氏、新谷勝行氏 ほか）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府京丹後市教育委員会、京丹後市周枳公民館、京丹後市立丹後古代の里資料館、大宮売神社、 京都府立宮津高校			
【研究活動の要約】 これまで京丹後市大宮町所在の大宮売神社の所蔵資料について調査を継続的に実施してきました。平成 29 年は、京丹後市立丹後古代の里資料館で、その成果を市民に公表すべく、特別展「大宮売神社 ～古代祭祀とその後の展開～」が行われることになりました。その企画に加わるとともに、子供向けの体験会や、資料館での展示解説を行いました。さらに、大宮売神社と周辺の建造物、石造物、景観の調査を実施し、これまでの成果を合わせて報告を作成し、『舞鶴・京丹後地域の文化遺産』（京都府立大学文化遺産叢書第 14 集）に載せました。また、これらの文化遺産に対する調査に際し、地元の京都府立宮津高校の探究部歴史班と共同作業を行い、大学生と高校生の間で意見交換などを行いました。			
【研究活動の成果】 大宮売神社境内遺跡出土資料について、神社所蔵資料に加えて、京都国立博物館所蔵の資料を合わせて展示された結果、この遺跡の出土遺物の全体像が明らかになりました。玉類をまじえるものの、圧倒的多数がミニチュア土器である実態が確認できました。また、出土した土師器や須恵器の型式から、5 世紀前半から 6 世紀前半までの年代が明らかになり、多用されたミニチュア土器の製作技法も把握できました。そして、比較研究を通して、古墳時代の祭祀遺跡が神社になる典型的な遺跡と評価することが可能になりました。このような意義を伝えるために、子供たち向けの体験会や、資料館での地域史をふまえた展示解説を実施しました。 以上の活動に合わせて、現在の神社に残された建造物や石造物について実測を行い、全体的な記録化を図りました。江戸時代から今日にいたる文化遺産が集積されており、その保全を図るための基礎資料を作成することができました。隣接する薬師堂のように、これまであまり評価されていなかったものの位置付けも可能になり、地域の歴史文化を知るための一助になると考えられます。			
【研究成果の還元】 平成 29 年 11 月 3 日 京丹後市立丹後古代の里資料館 展示解説会 約 20 名の参加 「第Ⅲ部京丹後地域の文化遺産」『舞鶴・京丹後地域の文化遺産』（京都府立大学文化遺産叢書第 14 冊、2018 年 3 月刊行、京都府立大学附属図書館で閲覧可）			
【お問い合わせ先】 文学部 文化遺産学研究室 教授 菱田 哲郎 Tel: 075-703-5264 E-mail: hishida@kpu.ac.jp			

参考 (イメージ図、活動写真等)



④ (③と同形)

〔竿部正面(南)〕 御神燈
 〔竿部背面〕 八月祭祀亦
 〔基台正面〕 氏子中(横書き)
 〔基台左側面〕 今城
 藤原 意定

③

〔竿部正面(南)〕 御神燈
 〔竿部背面〕 文政三辰天
 〔基台正面〕 氏子中(横書き)
 〔基台背面〕 石工
 立波東助
 世話人
 佐兵衛
 貞右衛門
 浅治郎



子供向けの体験会の様子



丹後古代の里資料館での展示解説